

平成 25 年度 SPring-8 ユーザー協同体 (SPRUC) 第 1 回評議員会 議事録

日時：平成 25 年 4 月 23 日 (火) 13:30～16:00

場所：SPring-8 上坪講堂

出席者：雨宮慶幸、今泉公夫、桜井健次、巽修平、月原富武、中川敦史、野間敬、渡辺義夫、岸本浩通、工藤喜弘、坂田修身、坂田誠、堂前和彦、水木純一郎、以下テレビ会議にて出席 朝倉清高、上村みどり、十倉好紀

幹事：西堀英治、籠島靖、久保田佳基、原田慈久、佐藤衛、佐々木園、杉本宏、

オブザーバー：野田健治、高田昌樹、鈴木昌世、八木克仁、山下幸二、辻雅樹、垣口伸二、吉川史津、生越満、野口岳大

事務局：牧田知子、坂川琢磨

- ・議事に先立ち、雨宮会長の挨拶、幹事紹介、評議員紹介があった。
- ・前回平成 24 年度第 3 回評議員会の議事録を承認した。

議事

1. SPRUC の概要説明

資料 3 に基づき雨宮会長から説明があった。

平成 24 年度活動として、SPring-8 シンポジウムの開催、Young Scientist Award の実施、SPring-8 動向調査の実施等が報告された。

2. 24 年度決算について

資料 4 に基づき原田会計幹事より平成 24 年度決算が報告され、承認された。

3. 25 年度の組織体制について

資料 5 に基づき西堀庶務幹事より企画委員会と以下の作業部会について報告と質疑があった。(企画委員会の設置、項目別 WG を設置することについては前回評議員会で了承済みである。)

1) 放射光科学将来ビジョン作業部会の設置および第 1 回会合について

・第 1 回会合の主な議事は、設置目的、経緯、位置付けの確認であり、設置目的は次期計画の意義を明確にし、意見集約の結果を SPRUC 独自の答申として出すことである。

・進め方としては、放射光科学将来ビジョン骨子の作成、シンポジウムでの報告および議論を経て、白書の完成である。

・作業部会メンバーの佐藤幹事より部会での議論は、集約した意見をどこへ出すのか。放射光学会が果たすべき役割との関係はどのようになるのかという位置付けのこと。骨子のたたき台を作成するにあたり産業利用の位置付けをどのようにするのか。それを骨子の中にどのように盛り込むのか等について検討したと説明があった。

・水木評議員より、放射光学会の会長としての要望として、完成した白書を放射光学会への提出して欲しいこと。また、放射光、SPring-8 の将来あるべき姿を議論するので会長や渉外幹事など学会からのオブザーバーを入れていただきたいことと意見があった。雨宮会長から次回部会からオブザーバーの参加をお願いしたい旨述べられた。

2) 3つの新しいWGの設置提案

2-1) SPRUC 研究会組織検討WG (案)

中川利用委員長より SPRUC 研究会組織に関する WG について説明された。

・現在の組織では、利用者懇談会の研究会を引き継ぎ、かつ必要な研究会を追加してはいるが、会員すべての意見を吸い上げにくい状況にある。そこで、研究分野の意見を吸い上げるため、各分野を俯瞰して見ていただける顧問を置く。

・研究会は、Life Science, Material, Device, Social Life の各分野のくくりと研究会が利用する BL のくくりの両方を持った形態を考えていて、10,000 人規模のユーザー全員がアクティビティを議論できる場を作ることが重要である。シンポジウムの頃に改善案を提案し、25 年度より新体制を目指す予定である。

これについて、以下のような意見、議論があった。

・顧問に評価を受けるのは活動評価のような柔らかいものであるのか。ユーザー全員が会員になった各研究会の評価に対して現在の少ない活動予算はバランスが悪いのではないかと、表現を工夫する必要があるのではないかと。

・分野として漏れているものはないかチェックし、カバーできていない研究会は立ち上げる。会員からは各研究会の活動やその質に差があると感じたとの意見もあるので、分野のカバーだけでなく、いろいろな視点で考えていく必要があると考えている。

・現在の案ではサイエンスで分けた分野であるが、産業利用はどこに入るか、あるいはどのように分けるのが良いか。産業界には利用推進協議会があるのでそれとの調整も必要になる。

・産業界の立場から、産業利用ユーザーは多いのでユーザーの立場で見直していただければありがたい。分野ではフォローできない部分をカバーできるので BL のくくりを入れたのは良いと思われる。ただし、BL だけのくくりで実際にできるのか疑問がある。

・産業利用は切り口が異なるので、これまでは推進協と利用懇の共催で活動してきた、同じような方法で徐々に擦り合わせるのが良いのではないかと。

・現在はメジャーではないが、今後の進展が期待される分野テーマを入れていただくのが発展には重要である。顧問が研究会を評価し、encourage するのは良いが、評価を何かに反映させるのか。

・カバーできていない分野を見るのが重要と考えている。顧問の役割等文言は修正していく。

・活動評価には学術的な研究内容もさることながら、SPRUC の目的は、それを通して SPing-8 の利活用について意見を言う組織と考えている。実態を把握するにはメンバーに現場に近い方をもう少し入れた方が良いと考えている。

纏め：WG の設置は、いただいた意見を参考に趣意書を作成し、メール審議を経て正式に発足することとした。

2-2) 大学院連合検討WG(西堀)

西堀庶務幹事より大学院連合検討WGについて説明された。

- ・専用BLや大学のBLにおいて多くの学生がSPring-8に常駐している現状において、放射光科学に携わる人材育成や国際研究ネットワークの活用のためにはOn the Research Training(ORT)やインターンシップの重要性が増している。大学によってはすでにLeading大学院プログラムや連携大学院などが行われており、そのような大学院を集めてそこに所属している大学院が主体プログラムを考えていく。

- ・プログラムの内容としては、放射光科学特別講義および実習を行い、筆記試験と実習評価を行うことを考えている。評価は例えば萌芽研究課題申請に活用できる。

- ・検討項目は予算、施設の受け入れ体制、単位認定、それぞれの立場でのインセンティブなどが挙げられる。

雨宮会長から以下の補足説明があった。

- ・これは新たに大学院を作るのではなく、既存の大学院に参加してもらう形をとる。単位認定をするのは内容の検討や手続きも含めて極めて難しいのでSPRUC独自の単位を作って始める予定である。

- ・放射光のツールがブラックボックスになっているので、放射光の基礎的な共通の内容を各大学で別々に教育するよりはSPring8で行った方が人材育成としても効率的である。

- ・4月に初旬に文科省で行われたSPring-8の中間報告会において、会議後大学院連合について質問があった。そして、4/23日刊工業新聞に大学院連合の記事が掲載され、マスコミの関心も高いようである。

これについて以下のような意見、議論があった。

- ・PF-UAでも2年前から大学院生の教育、人材育成を検討している。北大もPFと連携協定を結び、放射光を活用した教育を行っている。大学では大型の施設を揃えることはできないので、このようなことをsystematicに行うのは賛成である。単位互換やダブルディグリーも考えていく必要があるのではないかと。

- ・放射光学会の立場として、学会がこれに直接関与することはないが、学生会員を増やすには有効に働くと期待される。学生が学会に入るメリットは見えにくいだが、講義・実習を経て入会のチャンスになるので積極的に進めていただきたい。学会としても協力する。

- ・Cheironスクールや夏の学校は施設が主体になって行ってきたが、これらを受け継ぎ、ユーザーコミュニティとしてこのプログラムを実施する。検討事項として、実習等に必要なビームタイムの捻出、カリキュラムの整理、予算(大学院生への奨学金)の確保がある。

- ・企業の中で放射光の教育をするのは難しいので、このプログラムは大変良い企画である。しかし、学生教育を目的とすると企業からは参加し難しくなる。企業から人を送り込み易いしくみが欲しい。企業側には即戦力を望まないで、教育を受けた学生を採用していただけると良い、修了証を見てもらえると良いとの意見があった。

- ・若い人材を産学問わず育成するのは重要なことである。学生だけではなく、元々合成や物性、アプリケーションでスタートした企業研究者はSPring-8の利用をセットで研究していく必要があるため、そのような人たちを含めてトレーニングの場としてこのプログラムを使えると良い。

- ・この取り組みには期待している。中身をどのように考えるかが重要である。就職では必

ずしも専門分野に進むわけではないので学生に放射光の基礎を学んでもらうのは有効である。企業の専用 BL でのインターンシップでは産業界の課題を知ってもらうことができる。産業界と歩調を合わせて考えていただくと良いプログラムになるのではないかと思われる。

・講義の内容も重要であるが、講師の先生に親近感がわくことも学生にとっては良いことであり、講師の選び方も考慮いただけると良いのではないか。

・ **Biology** 分野の研究者や学生は放射光のことをほとんど知らないので、この取り組みは良い。

・プログラム修了生は戦力になる。例えば、大学 30 名、産業 20 名くらいとし、社会人枠を設けるとしたら、企業では参加を検討していただけるのであろうか。企業が参加するかどうかはここで決めておく必要があるのではないか。この提案の段階では大学院生対象であり、企業については考慮されていない。講習会的なしきいの低さがあれば企業も参加し易いと考えられる。そもそも大学院とインターンシップは技術的に両立するのかという疑問もある。産業界は必要性を強く感じていると思われる。

・教育プログラムには違和感がある。ORT などの必要性はあるが、これは本当に大学院連合でやらなければならないことなのか疑問がある。提案ではメリットだけが示されているが、デメリットも示すべきである。このシステムができた後のことも考える必要がある。予算がないから大学院連合を作るというのは本末転倒ではないか。SPring-8 自体は研究のピークを高くすることと、裾野を広げることが求められているが、この取り組みでスタッフやユーザーにどれくらい負担がかかるのかを考えることも重要ではないか。大学が単位認定するのは簡単なことではないので、それをする負担は大きい。ユーザーの系統的な教育は大賛成であるが、そのために大学院連合はマッチしているか疑問である。提案に反対ではないが、最終的な目標の形を明確にし、実効的で負担にならないやり方を考えていただきたい。

・産業界の方が盛んに連携大学院の有用性を説いていたが、製薬会社の場合、研究所で結晶解析業務に係る研究員には大学院で 3 年または 6 年間専門にタンパク質結晶解析の経験をつんだ専門家としての学生しか採用していないので、他の材料系の方とのニーズが異なっている。学生がプログラムを修了していても企業で必ずしも採用することにはならない。大学院の単位と連携するようなことがないとあまりメリットはないように思われる。少し時間はかかっても文科省と折衝し、きちんとしくみをつくったほうがよいと思われる。

纏め：賛否両論の意見があり、まずは、SPRUC として出来る範囲で進めることとした。

2-3) 12 条課題検討 WG (案)

西堀庶務幹事より 12 条課題検討 WG について説明された。

・登録機関 JASRI のスタッフが行うインハウス課題等の 12 条課題の成果は文科省に報告しているが、ユーザーにはあまり見えていない。これを開示することによりユーザーには新しい開発状況がわかるというメリットがあり、施設側には新規ユーザーの早期開拓などのメリットがある。また、現在の留保タイムが一律 20% で良いのかも検討課題である。

雨宮会長より補足説明があった。

・これは限りあるビームタイム活用の最適化が目的であるので WG タイトルは変えた方がよいと考えている。12 条課題が何であるかはあまり知られていない。

・課題の成果の公開はビームタイム利用の最適化や留保タイムの柔軟な活用の議論に有効に働くと考えられる。現在、インハウス課題の成果がユーザーに必ずしも迅速に伝わっていないため、検討する受け皿が整備されていないと感じた。ユーザーに情報が流れる仕組みを作ることが重要と考えられる。

これについて、以下のような意見、議論があった。

・成果の開示は良いと思うが、現在うまく動いているシステムは失わないように配慮した方が良い。少しずつ変化するなら良いが、大きく変えるのは、やり過ぎではないか。

・現状が悪いというわけではなく、12条課題は良く知られていない。どこを議論できるのかを知っておくことは長い目で見ると大事ではないか。12条課題の成果は文科省だけでなくユーザーにも発信する流れができれば利活用に資すると考えられる。

・ビームラインスタッフが少ない中で、今後のインハウス課題の利用方法も含めて検討すべきである。

・供用 BL のうち産業利用 BL については利用推進協議会の技術報告会で発表されている。技術開発の発表の流れを作ることは重要であるが、それはシンポジウムで行えば良い。BL が留保タイムをどのように利用しているのか中身を誰かが見なければならぬ。しかし、BL 毎の事情が異なるのでそこまで見ることが果たして可能なのか疑問がある。

・12条課題のうち、内部スタッフが課題申請して課題選定委員会で採択されて行っている課題は、ここには触れない。その他、BL の技術開発やメンテナンスのようなものが対象となる。この部分は検討できるなら行い、有効な利活用に資すべきである。これらは SPRUC が提案して決まることではないが、議論を吸い上げる出発点にはなると考えられる。最終的には JASRI の選定委員会等で決めることであろう。

纏め：いただいた意見を基に作業部会立ち上げに向けて案を練り直すこととした。

4. SPring-8 シンポジウム 2013 の開催について

資料 6 に基づき、久保田行事幹事より SPring-8 シンポジウム 2013 の開催について報告があった。講演には放射光将来ビジョンの報告が予定されていること、パネルディスカッションは「研究会活動の将来について」をテーマとして企画されることが述べられた。

また、Young Scientist Award の候補者を募集中であることも紹介された。

5. 25 年度予算案について（JASRI との契約について）

資料 7 に基づき、原田会計幹事より SPring-8 シンポジウム 2013 の予算案、平成 25 年度の SPRUC 全体の予算案が示され、承認された。SPRUC 全体予算では、JASRI からの動向調査費が 350 万円に増額された。

6. JASRI・SES との契約について

資料 8 に基づき、雨宮会長より JASRI との協定契約書と動向調査計画書、SES との経理及び報告書作成補助業務委託契約書について説明があり、承認された。

7. その他

・今年度、大学の人事異動により機関代表者が交代したためその手続きのため SPRUC 会長からの依頼状が欲しいとの依頼があった。

・今年度も動向調査は研究会が行うのか質問があった。今年出した動向調査が適切なものであったのかフィードバックして欲しい。西堀庶務幹事から、今年度の動向調査は昨年度と同じ形では行わない。今年度はできれば研究会の改編・再編を早く進め、できた研究分野の意見を纏めて行きたいと考えていると回答があった。

・SPRUCで議論している内容のいくつかは放射光学会に提言していくことが必要ではないか。放射光学会が主導で行うこともいくつかあると思われるとの意見があった。